

生産性5%以上向上

自動・高度化システム構築

FCHD

福山コンサルタントグループの純粋持ち株会社、FCHD（福山宏治社長）は7日、福岡市で17年7～12月期の決算説明会を開いた。福島社長は成長戦略として、生産性向上への取り組みを本格化する考えを表明。人工知能（AI）などを活用した「自動・高度化システム」を構築し、1時間当たりの生産性を5%以上高める目標を明らかにした。

同社は今後、「三つの生産性向上プロジェクト」として▽1時間当たりの生産性向上施策▽多領域の専門人材の採用▽働き方改革



福島社長

の推進に取り組む。

生産性向上の具体策には▽交通ICT（情報通信技術）などビッグデータの高度処理自動化▽各種地形図情報の統合化▽自動判別技術の開発▽業務成果報告書作成の自動化などを想定。業務全体を「見える化」した上で、各種ビッグデータの収集・解析技術の高度化などを可能にする「自動化・高度化システム」の構築を目指す。

同システムの活用により1時間当たりの生産性を5%以上高めるとともに、10%を超える付加価値比率のアップ、業務成果品質のさらなる向上を実現して、「最終目標として競争優位性を確保する」（福島社長）方針だ。

人材確保では大半を占める土木系に限らず、環境系や情報系など幅広い採用を進める。働き方改革では「労働時間の短縮」を最重要課題に位置付ける。17年7月～18年1月の平均残業時間は前年同期に比べ1割減を達成。今後もこれを継続し、フレックススタイルの再試行や在宅勤務の試行に取り組む。サテライトオフィスの開設や地域限定職制度の導入も検討している。

17年7～12月期の連結業績は受注高66億84百万円、売上高12億67百万円と計画通りに推移しており、現時点で18年6月期業績は期初予想通り。グループ再編成では、センサーや無線通信を活用した構造物の点検・診断などのシステム開発を手掛けるHMBを発展的に統合する形で、6月までに技術研究所を設立する。建設コンサルタン分野で部門やエリアが重複しない企業との連携も目指す。

17年7～12月期の連結業績は受注高66億84百万円、売上高12億67百万円と計画通りに推移しており、現時点で18年6月期業績は期初予想通り。グループ再編成では、センサーや無線通信を活用した構造物の点検・診断などのシステム開発を手掛けるHMBを発展的に統合する形で、6月までに技術研究所を設立する。建設コンサルタン分野で部門やエリアが重複しない企業との連携も目指す。